

研究に関するご協力をお願い

福島県立医科大学肝胆膵・移植外科学講座、基礎病理学講座では、本学倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。本学における診療情報の利用について、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2024年4月

研究責任者

福島県立医科大学医学部肝胆膵・移植外科学講座 丸橋 繁

■ 研究課題名：膵癌の治療に有用な新規バイオマーカーの開発

■ 研究期間

2024年4月（承認日）～ 2028年3月

■ 研究の目的・意義

膵癌は早期発見が困難なことに加え進行が早いことが特徴で、消化器悪性腫瘍の中で最も予後不良な癌種の一つです。唯一の根治治療は手術になりますが、診断時に切除不能であったり、術後に再発する症例も少なくありません。このような症例には化学放射線療法を行います。しかしその効果は限定的であるため、早期診断のための新規バイオマーカーや予後予測バイオマーカー、切除不能・再発症例に使用できる新規分子標的治療の開発が期待されていますが、現時点で膵癌バイオマーカーは精度が不十分であり研究段階にあります。一方、乳癌や肺癌では、癌の発生や増殖に関与する癌ドライバー遺伝子の研究が進んでいます。これらの癌種では網羅的遺伝子解析から新規のドライバー遺伝子の変異が次々に同定され、コンパニオン診断と分子標的治療が一体となった個別化治療戦略が開発されて、すでに臨床応用も進み治療成績が大幅に向上しています。しかしながら、膵癌において癌ドライバー遺伝子の研究は遅れています。

そこで、本研究では膵癌細胞の表面分子に着目し、表面分子の同定・機能解析、予後との関連調査を行うことで、膵癌の発生や進行の機序解明に役立つばかりでなく、新規診断や分子標的治療の開発に大きく貢献できるものと考えています。本研究では、サーフェソーム解析という研究手法を用いて膵癌の細胞表面に局在するタンパク質を網羅的に解析し、新規バイオマーカーの候補を探索するところから始め、その候補因子の機能解析を行います。これにより将来的には膵癌の個別化治療に寄与できる基盤的知見が得られると考えられます。

■ 研究対象となる方

本研究の対象は、福島県立医科大学肝胆膵・移植外科で原発性膵癌に対して摘出術を実施する患

者さん、腹水除去術を実施した患者さん、福島県立医科大学で病理解剖が行われ、原発性膵癌と診断された患者さんを対象とします。また、本研究で発見された新規バイオマーカーが実際に膵癌の病期分類や予後、転移や再発の有無に関連するかについて、2016年4月から2024年3月までに当院で手術を行ってきた膵癌の組織標本を用いて検討致します。

■ 研究の方法

対象となった患者さんの摘出標本の一部を研究用として採取・収集し、前述の細胞表面分子の解析を行います。いずれの対象患者さんに対しても、本研究のために臓器を余分に採取することや、本研究を目的とした追加の処置は行いません。

■ 試料・情報の利用を開始する予定日

2024年5月1日

■ 研究組織

この研究の研究責任者は肝胆膵・移植外科学講座 丸橋 繁です。集められた試料や情報の管理責任者は福島県立医科大学学長 鈴木弘行であり、それらの情報は福島県立医科大学肝胆膵・移植外科学講座で利用し解析を行います。

■ 他の機関などへの試料・情報の提供について

収集された情報の一部は、解析のため委託先である名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所分子構造センター、北里大学理学部疾患プロテオミクスセンターへ提供します。USBにて研究IDと解析に必要な情報のみを提供します。

■ この研究に関する問い合わせ

この研究に関して質問などございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象の方の個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲で、研究計画書や研究方法に関する資料が閲覧できます。

また、試料・情報がこの研究に利用されることについて、研究対象者ご本人または代理の方にご了承いただけない場合は、研究対象者とはせずに試料・情報の利用や提供はいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人または代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取り消すことは困難な場合もあります。

問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

公立大学法人福島県立医科大学医学部肝胆膵・移植外科学講座 担当者：東 孝泰

2026年1月19日作成（第2版）

電話：024-547-1254

e-mail：t-azuma@fmu.ac.jp